

令和 2 年度 高知市障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画策定

におけるニーズ調査報告（障害児分野）

1. 親子通園施設「ひまわり園」での意見交換会

日 時：令和 2 年 6 月 26 日（金）9 時 30 分～11 時 30 分

場 所：親子通園施設「ひまわり園」1 階

参加者：卒園児の保護者 8 名（4 名ずつ，2 グループでの意見交換）

2. 「ゆったりっこクラス」での意見交換会

日 時：令和 2 年 6 月 16 日（火）9 時 30 分～11 時 30 分

場 所：親子通園施設「ひまわり園」2 階和室

参加者：卒園児の保護者 2 名，通園児の保護者 1 名

<意見交換会の内容>

1. 「ひまわり園」での保護者の意見**サポートファイル****①サポートファイルの活用状況**

- ・ひまわり園以外の場所で「サポートファイルを見せて(持ってきて)ください」と言われたことがない。
- ・卒園してしばらく経つと，存在を忘れてしまうし，こまめな性格の人じゃないと続かない。
- ・保育園でクラスが変わる時に，新しい担任に見せている。書くことを忘れてしまうこともあるので，半年に 1 回は絶対書く決めてしている。
- ・検査値を綴じているが，すぐに取り出せないで，誰かにすぐに見せたい時には携帯電話の写真に残している。
- ・高知県と高知市で様式が違うため，転居したときに 2 冊持つことになって困る。

②サポートファイルを活用しやすくするためには

- ・保護者をサポートしてくれるような内容や情報を入れてほしい。（民間機関の情報やライフステージごとの相談先，避難所のマッピングなど）
- ・引継ぎは支援者同士でやるものだと思っているから，そもそも必要なのかとも思う。
- ・各機関で共通で使えるものを作ってほしい。
- ・紙ベースじゃなくて，アプリ化してほしい。
- ・特性別や疾患別のものがほしい。

幼児健診

- ・問診でひまわり園や福祉サービスに通っていることをチェックできる欄があると，説明する手間が省ける。
- ・健診での医師・心理士・保健師からのことばに傷ついた。短い時間の間だから，分かりやすく伝える必

要はあるだろうけれども、直接的なことばで言われるとショックが大きい。

ひまわり園・福祉サービス

- ・ひまわり園では、医療以外のことが相談できてよかった。
- ・もっと早く「ゆったりっこクラス」の情報を知りたかった。（「ゆったりっこクラス」からひまわり園へ移行した保護者）
- ・児童発達支援事業所は平日のみ通園の事業所が多いため、保育園や幼稚園を休んで連れていっており、利用時間の都合が合わない。
- ・児童発達支援事業所の情報が少ない。
- ・児童発達支援事業所は個別の支援を考えてくれ、保育園にも遊びの中での手立てを伝えてくれている。

保育園・幼稚園

- ・医療機関の受診の際に保育士が同行してくれて、医師からの助言を取り入れてくれている。
- ・加配保育士の配置を申請した方がよい状態なのかどうなのかは、保護者では判断できないので、どうしたらいいのかサポートしてほしい。（幼稚園）
- ・医療機関の理学療法士が園の様子を年1回見に来てくれ、保育士に助言してくれている。
- ・高知市からいろんな人が保育園に子どもの様子を見に来るが、見に来る人によって言っていることや見解が違う。

相談先

- ・色々保護者が積極的に動かないといけないことは分かっているが、そもそもの情報がないとどう動いていいのか分からない。
- ・病院のソーシャルワーカーがサービスの手続きなど詳しく教えてくれるが、大まかにフローチャートのような形で「この時期にこんな相談ができる」ということを教えてほしい。
- ・福祉サービスの情報やNPO、民間のイベントや集まりなどの情報は誰に聞いたらいいのか分からない。

災害

- ・住んでいる地域では、年に1回避難訓練をしている。医療的ケアもしているので、1度参加したが、酸素ボンベを持って避難することは結構大変だし、難しいと思った。津波以外は自宅で過ごせるようにしようと準備はしており、学校にも協力してもらい、3日間は学校だけでも過ごせる用意はしている。
- ・避難所には行きづらい。じっとしてられないし、パニックを起こしたら周りに迷惑をかけてしまう。
- ・児童発達支援事業所は雑居ビルに入居している場合が多いが、耐震などはしっかりしているのか心配。

その他：就学に向けて

- ・「居住地交流制度」があり、地元の小学校と交流したのは良かった。
- ・特別支援学校や特別支援学級の門戸が狭い。いわゆる「グレーゾーン」だと通常学級になってしまうため、そこでつまづいてしまったという話を他の保護者からよく聞く。
- ・「発達障害」やその他の疾患に対する知識のない先生がいるため、不安。

2. ゆったりっこクラスでの保護者の意見

サポートファイル

①サポートファイルの活用状況

- ・「成長の記録」を記録している。サポートファイルは疾患や障害を問わずに記入できるようになっているため、別添として子どもの疾患に合わせた成長曲線や発達の記録用紙を自分で探し、インターネットからダウンロードして綴じている。
- ・病院で言われたことや忘れてはいけないことは、別のノートや携帯のメモに適宜書き出している。必要な箇所を取り出して持ち歩けば良いのだが、大きさや重さが少し不便。
- ・病院や保育園、福祉サービスの場面でサポートファイルを記入しているか聞かれることがないため、同じことを最初から説明しないといけない。自分から持って行って見せなければいけないなど思った。

②サポートファイルを活用しやすくするためには

- ・初めてできたこととか、節目節目の思い出を記入できたらうれしい。
- ・アプリ化されたら、その場で使えるし、便利そう。

幼児健診

- ・病院にかかっている子どもの保護者は「健診って行っていいの?」と思っている。病院で診てもらっているから（健診に行かなくても良いのではないか）と思っている。
- ・健診は行くものだとは思っているが、いつくらいにどこから連絡があるのか知らない。

ひまわり園・福祉サービス

- ・子育て支援センターはあるが、やはり周りの子どもと違うため少し違和感があった。「ゆったりっこクラス」は少人数で他のお母さんとも話しやすい環境。
- ・子どもの異常が分かった時点から福祉サービスなどのことは知りたかった。診断がついていない子どもも多いと思うが、相談を必要としている親は多いと思うため、声掛けや情報提供はあったらいいと思う。
- ・療育と「ゆったりっこクラス」を併用しているが、併用して困るということはなかった。違った視点の意見もあるが、それはそれで参考になる。

保育園・幼稚園

- ・保育園で加配保育士がついている。ついてくれていることで、園に慣れやすかったと思う。
- ・これまでに障害のある子どもを受け入れたことがある園だったので、椅子などの物品がそろっていた。
- ・保育園併設型の子育て支援センターに通っており、そのままその保育園に入園したが、顔を知ってくれていたし、状態も知ってくれていたため、園生活がスムーズに始まった。

相談先

- ・ 自分から相談できるタイプではないので、保健師の訪問は良かった。
- ・ 転入してきたが、転入前の保健師と転入後の保健師が連絡をとりあってくれていたので、引っ越ししてもスムーズに相談できた。
- ・ 自分で行動できる親は「分かっているみたいだから、大丈夫だね」とあまりフォローしてもらえず、寂しい思いもある。
- ・ 親同士で今日のように色々と情報交換できたらうれしい。
- ・ 診断がついた時や退院の時など、病院から早めに相談先や福祉サービスの情報が欲しい。

災害

- ・ 引っ越ししたばかりで、地域で避難訓練などしているのか分からない。近所の人に避難所は教えてもらった。
- ・ 子育て支援センターで、地域の防災フェスタなどの情報は聞いたことがある。スーパーにも防災に関するチラシを貼ってあるのを見たことはあるが、気にして見ていないと気が付かないと思う。

<課題>

①保護者が求める情報の共有や発信が十分でない

- ・ サポートファイルの効果的な活用につながっていない。
- ・ 就園，就学，福祉サービス，防災についての情報が得られにくい。
- ・ 支援早期からの情報提供が十分にできていない。

②関係機関との連携が十分でない

- ・ サポートファイルの効果的な活用につながっていない。
- ・ 就園，就学のタイミングでの引継ぎの体制はできてきているが，臨機応変な情報の共有や支援方針のすり合わせなどに課題がみられる。

3. 高知市の保育園6園との意見交換会

日 時：令和2年7月9日（木） 午後3時～4時30分

場 所：オーテピア研修室

参加園：あゆみ保育園・石立保育園・大津保育園・
鴨田保育園・城南保育園・さえんば保育園

参加者：各園長および保育士1名

保育幼稚園課3名・子ども育成課2名

※ 会の進行上、事前に高知市の全認可保育園・特別支援配置児のいる認定こども園にアンケート調査を実施。

<意見交換会の内容>

子どもの姿・思い

- ・児童発達支援事業所等を週に1～2回利用している子どもが多い。
- ・子どもによっては、児童発達支援事業所等に行くのを嫌がったり、疲れていたりする様子もあるが、大体は適応して双方に通っている。

保護者の思い

- ・子どもの成長を願い、積極的に児童発達支援事業所等を利用することで成果を感じている保護者が多い。
- ・保育園での日々の積み重ねというよりも、児童発達支援事業所等に通わせることに重きをおく保護者もいる。

保育園の思い

- ・子どもの成長を願う気持ちは保護者と同じである。
- ・児童発達支援事業所等に通う日が多く、保育園の毎日の生活やあそびが積み重なっていかないことに戸惑うケースもある。
- ・保育園での生活・あそび全ての中に子どもの育ちがあることを、保護者や児童発達支援事業所等にさらに理解してもらえる伝え方を工夫する必要がある。
- ・児童発達支援事業所等の利用回数などを検討する時に、連携を取らせてもらえたら、よりよい支援方針を探っていけるのではないか。

関係機関との連携

- ・幼児健診や園生活での気づきがきっかけで、子ども発達支援センターや医療機関につながることが多い。子どもを中心として、それぞれの関係機関が情報共有し、支援の役割分担をすることができればいい。

<課題>

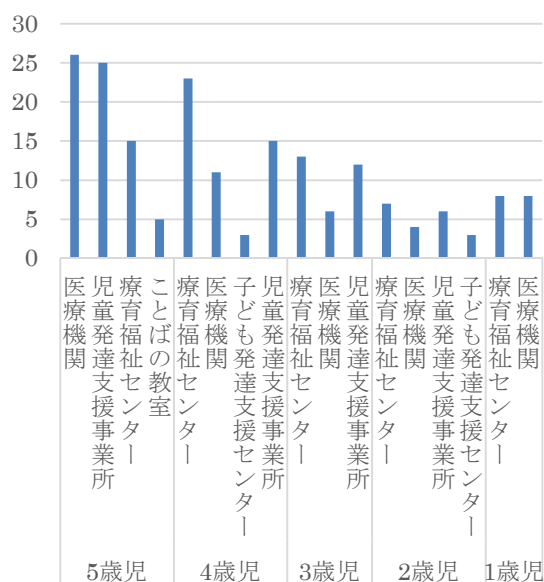
①各関係機関、保護者、保育園の間で情報共有と連携が十分でない

- ・各関係機関、家庭、保育園での子どもの育ちについて、情報の共有は少しずつできてきているが、未だ不十分な点がある。
- ・保護者や関係機関に対し、保育園における子どもの育ちの伝え方を工夫していくことが必要である。
- ・保育園と各児童発達支援事業所等が、サービスの利用回数の調整について話し合う機会がない。

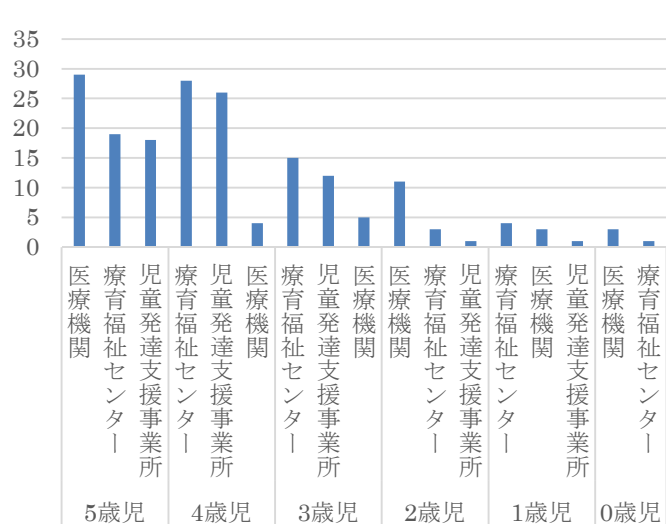
【参考：事前アンケート調査結果】

Q 関係機関にかかっている子どもは何名いますか？また、通っている関係機関はどこですか？

【特別支援担当保育士がついていない子ども】



【特別支援担当保育士がついている子ども】

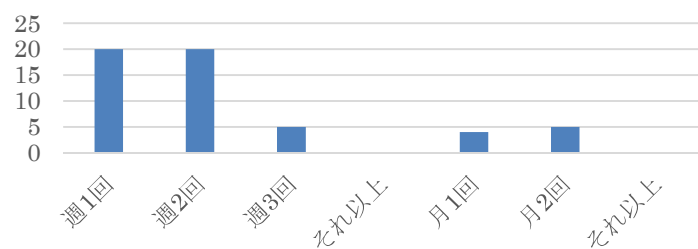


※医療機関：療育福祉センター以外の医療機関。

※ことばの教室：言語障害通級指導教室。

Q どのくらいの頻度で児童発達支援事業所に通っていますか？

【特別支援担当保育士がついている子ども】



Q 保育施設と関係機関との連携の状態等をご記入ください

保育所等訪問支援事業/ケース会/保護者と一緒に関係機関に同行する/関係機関と電話でのやりとり
保護者を通して内容把握/相談支援員が来園/保健師の訪問/これから関係機関とつながりたいと思っ
ている

Q 保育施設と関係機関との両方へ通う中で子どもや保護者の様子等で、気付いたこと・感じたこと等
ご記入ください。

【子どもにとって】

成長が感じられる (26) /無理なく通えている(20)/通所が増えて、心身の負担が増えている(10)/通
所が増えて、園生活に支障が出ている (友だちとの関わり・生活リズム・生活の積み重ね・行事に向け
ての取り組みなど) (5) /通所後の登園時、不安定な姿がある(4)/大事な場所となっている (2) /
通所をいやがっている (1)

【保護者にとって】

大事な場所・安心できる場所となっている(14)/子どもの成長を感じている(6)/子どもへの関わりが
改善された(5)/前向きになってきた(3)/園に協力的である (2) /園での経験が少なくなることが心
配である (2) /送迎など負担に感じている(2)/子どもの姿を受け入れられてないので消極的(2)/訓
練内容に不満・事業者任せきり・将来への不安・園での活動制限への悩み等

【園にとって】

・専門的なアドバイスが参考になる(6)/園と事業所と連携が取れている(6)/事業所での療育内容を園
の活動に取り入れることができている (4) /連携が取りにくい(3)/園のことを理解してもらう必要を
感じる

4. 障害児通所支援事業所へのアンケート調査（詳細は別紙資料2参照）

調査時期：令和2年6月～7月

調査対象：高知市内障害児通所支援事業所 61 か所

回収率：82%（50 か所）

<アンケート結果考察>

早期療育

- ・医療機関からの紹介で児童発達支援につながるケースがもっとも多く（60%）、次いで3歳児健診（45%）、1歳6か月健診・子ども発達支援センター（35%）となっている。（複数回答）
- ・高知市の早期発見・早期療育システムは、幼児健診から子ども発達支援センターの早期療育教室（5回で終了）につなげ、発達の状況を見極めた後に、関係機関（医療機関、児童発達支援、相談支援事業所等）を紹介していく流れとしているため、今回の結果につながったと思われる。
- ・医療機関からの紹介については、受診予約時に児童発達支援を紹介されたケースと、受診待機期間・発達検査の結果を待ってからの児童発達支援の紹介となり、就学が近づいているケースもあると考えられる。
- ・児童発達支援へのつながりが不十分で、保護者の受容や理解が不十分な場合が見受けられるとの意見もあり。

関係機関との連携

- ・保育所・学校等との連携については、パンフレットを持参して説明したり、送迎時に先生とコミュニケーションをはかり情報交換を密に行っているが、支援方法についての理解を得ることに苦慮している状況がある。

保護者支援

- ・保護者支援の必要性を理解し、実践している事業所がほとんどであったが、支援の困難さを感じている事業所も複数あった。

ライフステージ移行支援（サポートファイルの活用）

- ・サポートファイルは周知されているが、活用は半数程度であり、十分に活用されているとはいえない。
- ・保護者からの依頼がないため活用していないという事業所が多くあった。

その他

- ・待機児童数が極端に多い事業所があり、希望事業所の待機日数の課題がみられる。本当にその子どもに必要な療育支援であるか、また福祉サービスに限らず他に適切な利用施設がないのか、といったアセスメントが必要と思われる。
- ・高知市障がい福祉課は障害児通所支援の申請窓口で、支給決定を行っているが、支給決定には相談支援事業所が作成する利用計画案もしくは本人・ご家族が作成するセルフプランが必要である。通所支援を希望する保護者の相談窓口を「高知市役所」と紹介するケースが多くあり、その結果、一旦市役

所を経て障害者相談センターを紹介される流れになるため、保護者にとって二度手間となっている状況がある。

- ・事業所の空き状況や保護者の意向で頻度を決めている事業所が多数であり、家庭事情・事業所都合で利用日数を設定していることが考えられる。

<課題>

- ① 適切なサービスにつなげるためのアセスメント力が十分でない
- ② 関係機関との連携が十分でない
- ③ 相談窓口の周知が十分でない